

平成23年度

鳥取県文化功労賞 受賞記念巡回展

平成24年

1/21_土 ▶ 1/29_日

鳥取市歴史博物館(やまびこ館)

特別展示室

9時～17時(入館は16時30分まで)

休館日: 1月23日_月

平成24年

2/8_水 ▶ 2/15_水

倉吉博物館

展示室4

9時～17時(入館は16時30分まで)

休館日: 2月13日_月

平成24年

2/24_金 ▶ 3/4_日

米子市美術館

第1展示室

10時～18時

休館日: 2月29日_水

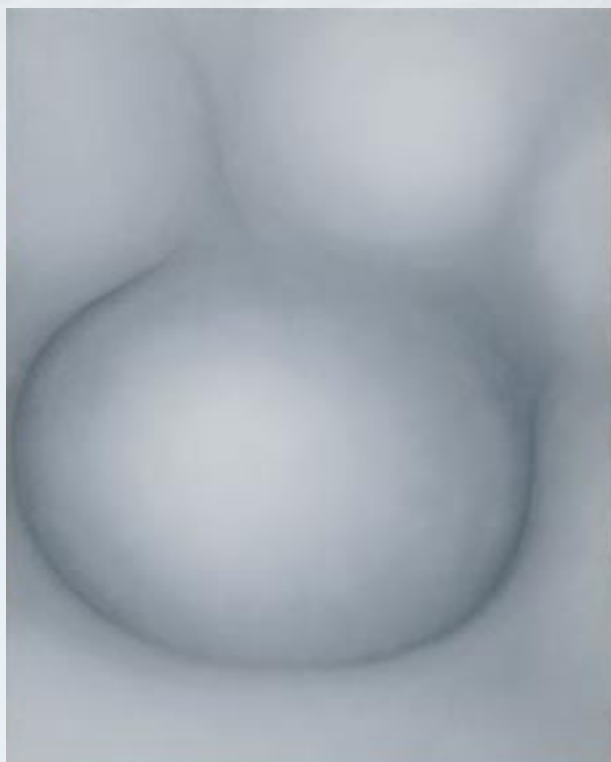


文芸・文化振興

須崎 俊雄



入場無料



洋画

ニシオトミジ

郷土史

影山 猛

主催 / 鳥取県

お問合せ

鳥取県文化観光局文化政策課

電話 0857(26)7839 ファクシミリ 0857(26)8108

E-Mail bunsei@pref.tottori.jp

鳥取県では平成15年度から優れた芸術文化活動により、広く文化の振興に功績のあった方の功績を讃えて表彰し、県民文化の向上に資することを目的として、鳥取県文化功労賞を設置しています。

本巡回展は、平成23年度に受賞された方の功績と活動を広く県民のみなさまに紹介するものです。

[本年度受賞者のみなさん]



須崎 俊雄 (すさき としお)

文芸・文化振興(鳥取市)

昭和8年、鳥取市生まれ。

鳥取大学学芸学部を卒業後、テレビ会社に勤務する。その傍ら、昭和43年に文芸同人誌「断層」を創刊し、鳥取の文芸に新風を吹き込む。その他、小説「うしろの正面」や劇作「鳥取城主・吉川経家」、「格子戸を破った男」等を出版し、幅広く活動している。特に「渴殺・鳥取城」、「鳥取有情」は、「市民による市民のための市民の演劇」を目指し、スタッフ・キャストを公募した市民劇を次々に上演し、市民文化の活性化を促した。

昭和60年に鳥取市文化賞を、また昭和63年に山陰中央新報社地域開発賞(文化賞)を受賞した。

また、鳥取県文化団体連合会会長、鳥取市文化団体協議会会長及び鳥取県総合芸術文化祭実行委員等を歴任し、鳥取県の文化振興に尽力している。



ニシオ トミジ

洋画(鳥取市)

昭和10年、八頭郡散岐村(現鳥取市河原町)生まれ。

鳥取大学学芸学部を卒業後、県内の中学校に勤務する傍ら、精力的に創作活動に励み、毎年県内外で作品を発表している。シンプルで内包的な「輪廻」シリーズの作品は、人間の生きて在る生命の世界を原初的・本能的エロスの形で表現しており、他に類を見ない個性的作風として高く評価され、昭和50年には「自由美術賞」を受賞した。

また、平成14年からは、モノを見る目、描く技をみがぐため、9年間ほぼ毎日1枚、小さな画面(はがきサイズ)にこの世の生物と無生物を凝視し、絵かきのつとめとして描き続けている。

現在、東京・大阪・松山など県内外での多数の個展開催や、県展・市展の審査員として活発な活動を行っている。

(写真撮影 池本 喜巳)



影山 猛 (かげやま たけし)

郷土史(江府町)

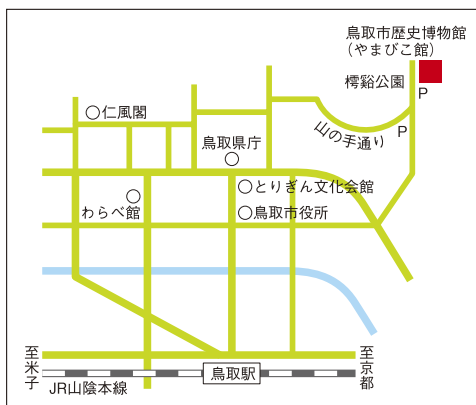
大正15年、日野郡生まれ。

昭和15年から3年間、縁あって「近藤鋼商店東京支店」に勤務し、その後、広島文理科大学文学部で学ぶ。昭和26年に同大学を卒業後は、県内の高校に勤務する傍ら、地元のたたらを調査するとともに、「日野町根雨近藤家資料集第一編」等の多数の地元の郷土史の歴史をまとめた著作を著す。これを契機として、高校退職後は、近藤家に残された膨大な古文書の解読と整理に専心し、近藤家の鉄山経営を中心とした「日野郡のたたら産業」の研究を推し進めた。

現在も、奥日野地域を繁栄させた「たたら製鉄」の歴史を再認識、再評価しようと設立された「伯耆国たたら顕彰会」の事業「日南町と日野町の展示施設「たたら楽校」(大宮楽舎・根雨楽舎)の開設や小説「TATARA」(松本薫氏著作)の時代考証」に協力するなど、地域おこしに貢献している。

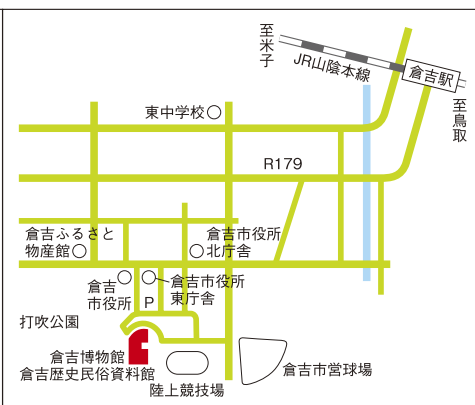
また、昭和61年から平成10年まで、江府町教育委員を勤めた。

[各会場へのアクセス及びお問合せ先]



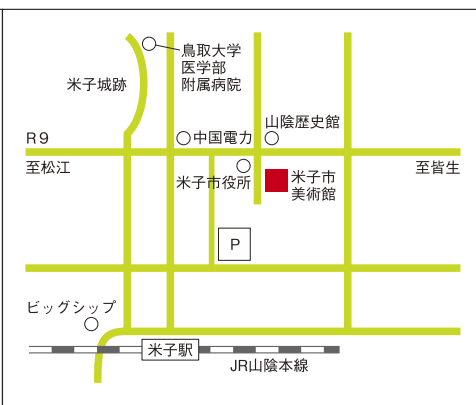
鳥取市歴史博物館(やまびこ館)

鳥取市上町88
電話 0857(23)2140



倉吉博物館

倉吉市仲ノ町3445-8
電話 0858(22)4409



米子市美術館

米子市中町12番地
電話 0859(34)2424